令和6年度第２回小合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議報告

日時：令和６年９月１１日（水）　10:00～11:30

会場：小須戸まちづくりセンター　会議室

【出席者】

小合コミ協：野瀬山副会長、金津コミ協：青木会長、小須戸コミ協：田中福祉部員(代理)、山の手地区社協：桒山副会長、小合民児協：古田会長、田村副会長、金津民児協：茨木会長、小須戸民児協：米田会長、舟戸1.2自治会：石井会長、長寿楽：白井代表、こすどプラチナネットワーク：大貫副代表(代理)、地域包括支援センターこすど：木村センター長

秋葉区健康福祉課高齢介護担当：林主査、今井係長(行政担当者)

秋葉区社協：稲垣事務局長、小林SC、大野

1. 圏域全体の取り組みとしてのサロン情報交換会の開催について

|  |
| --- |
| 支え合いのしくみづくり・サロン交換会について、構成員代表（４名）金津コミ協　青木会長、山の手地区社協　桒山副会長、小合民児協　田村副会長、こすどプラチナネットワーク　大貫代表により、計2回、7月4日・２５日に交流会の目的・対象・内容について話し合いを行った。  ※以下「令和6年度　小合・金津・小須戸圏域サロン情報交換会実施要項 案」の資料に基づき説明［説明省略］ |

２　支え合いのしくみづくりの周知について

1. 「わかりやすい周知について」

|  |
| --- |
| サロンの課題 |
| ・周知されているが、集まる人が固定化されている。  ・サロンと老人クラブは周知しているが、参加者が同じ人ばかりが集まり、固定化している。  ・参加者が年々減ってきている。歩くことが困難な人が増えてきているので、サロンに参加することが難しい。結果として人が集まらない。  ・サロンの参加者が固定化している原因として、内容が真面目過ぎると考えられるので、活気のあるサロンを目指していきたい。  ・後継者が不足しており、どのように育てていくかが課題である。 |
| 現状 |
| ・サロンに参加していただくために高齢者の送迎サービスを行っている。  ・サロンに来られない人たちにはタクシーなどの公共機関を乗り合い、３～４人で利用して来ていただく。  ・モデルハウスの参加者が増えてきて、地域の輪が広がっている。サロンには常時２０人程集まってくる。皆さんで常に声がけをしている。  ・包括支援センターで地域住民にアンケートを取っている。いろいろな取り組みがあり、検討して活かしていきたい。 |
| 考え方 |
| ・個人ではなく、地域全体で考える。  ・地域のつながりが地域住民を救う。地域の各団体が連携して取り組む。  ・町づくり、支え合いについて、地域住民と共に行う。  ・次世代が入会できるような取り組みが大切である。  ・自治会の把握と協力が高齢者福祉にとって必要不可欠になる。  ・有事の際は、助け合いを心がける。 |
| 手法 |
| ・民児協で地域の実態調査を実施する。民児協から情報を提供してもらい、実態を把握して地域住民と共有して取り組む。  ・自治体が図上訓練を毎年行うことで防災訓練を広げて、地域住民に防災訓練が必要という意識を持たせる。  ・草刈り、防災訓練、食事会など地域住民が集まる行事を企画することが必要である。また、地域の情報提供や周知活動も行う。  ・サロンに来ていただくために次世代とも楽しめる企画も行う。  →地域に根付いた訪問、顔の見える関係づくりが大切である。 |

1. 「周知できそうな場」

|  |
| --- |
| ・コミ協でのサロンの取り組みを広げるために広報活動を行なう。  ・民生委員で情報交換や情報共有をする。  ・長寿楽で新しい講座「パソコン・スマホ講座」を開催している。認知症の講座なども参加者が多い。  ・だんだん・嶋岡では、夏休み期間に子どもの居場所を開催している。居場所づくりが次年度へと繋がっていく。 |